



田島小だより

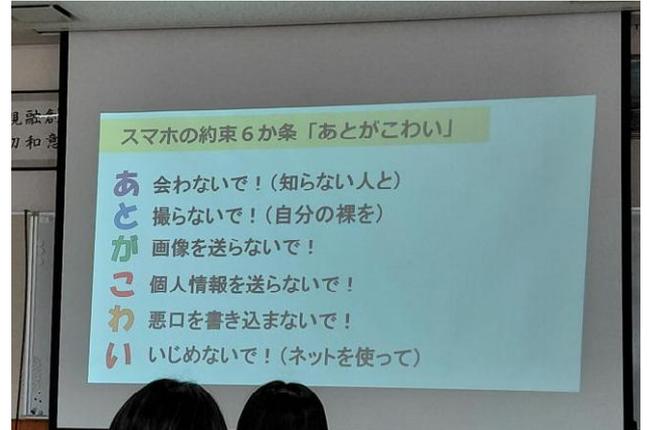
No. 10

「トラブル回避のためには！」

先月号に引き続き、情報モラルについてです。

右の写真は、学校警察連絡協議会の講話にて示された『スマホの約束6か条(あとがこわい)』です。

- あ： 会わないで！（知らない人と）
- と： 撮らないで！（自分の裸を）
- が： 画像を送らないで！
- こ： 個人情報を送らないで！
- わ： 悪口を書き込まないで！
- い： いじめないで！（ネットを使って）



<会津少年サポートセンター講話より>

書いてあることは、いつも学校で指導している内容ですし、各家庭でも気をつけている内容だと思います。しかし、教育相談週間で児童の話聞いてみると、SNSでのトラブルについて相談する子供が多かったです。

- SNS上のため顔を会わせていない状態で発せられた言葉に傷ついた子供
- 思いもよらず自分が写った写真(特定は出来ない状況)が掲載された子供 などなど…。(他にも…)

情報モラルの授業などで、上記6か条のような内容はやってはいけないと指導した際、子供たちは「当たり前」といった表情で学んでいます。しかし、いざ自分の行為行動を振り返ってみると、そのときの感情に流され、相手を傷つける言葉を思いがけず使用してしまったり、楽しかった思い出を他の友達にも見てもらいたいといった一時的な考えでアップしてしまったりしたようです。

ここで「トラブルの回避」のために必要なことは何でしょうか。

問題行動に対し「自分事」としてそのことを捉えることかと思います。このことは非常に難しいことで、すぐにできるようにはなりません。自分事として捉えさせるには、様々な出来事を何回も繰り返し、「自分なら〇〇する。」と考えさせることが効果的であると考えます。

テレビや新聞で、子供たちの問題行動が報道されます。その時、「〇〇はどう思った？」「〇〇はどうすればよかったのかな？」などと、考えさせることです。しかし個別にこのことを学校で行うことはできません。**トラブルの報道があった際は親子で繰り返し考えてみる、このことが自分事として捉えさせるために非常に大切である**と思います。

それでも子供は間違った行動をとることがあります。その時は家庭で話し合っていることをもとに、どうすべきであったのか話し合い、内容によってはしっかりと謝る。このことによって子供は正しい判断・行動ができるようになると思います。取り返しのつかない間違いとなる前に、自分事として捉え考えさせる機会をできるだけ多く経験させてください。

1月の行事予定

<p>1 (木) 元日</p> <p>5 (月) 仕事始め</p> <p>8 (木) 第3学期始業式 スキー場下見</p> <p>12 (月) 成人の日</p> <p>13 (火) つどいの広場 (1年) 身体測定 (高)</p> <p>14 (水) 身体測定 (中) 委員会活動</p>		<p>15 (木) 身体測定 (低) PTA専門委員会・役員会</p> <p>19 (月) 放送委員会 (T)</p> <p>21 (水) スキー教室 (高)</p> <p>22 (木) スキー教室 (中)</p> <p>23 (金) スキー教室 (低)</p> <p>26 (月) 給食委員会 (T)</p> <p>28 (水) 運営委員会 (T)</p> <p>29 (木) PTA役員選考委員会</p>	
--	---	--	---

「道徳の木」!

11~1月は「がんばりたいこと」2月は・・・そして3月は!

道徳教育の充実の一つとして昨年度から「道徳の木」を掲示しています。

昨年度は、第1校舎、第2校舎の階段の踊り場に掲示していましたが、全校生で見合うことができませんでした。今年は職員室前の掲示板を使用し、全校生が見合い、確認し合い、時に称賛や激励ができるよう、道徳教育担当教員が工夫しました。



<「道徳の木」令和7年バージョン>

自分の思いをしっかりと文字にすることはとても大切です。機会がありましたらまずはこの「がんばるゾウ (がんばりたいこと)」を見に来てください。

このあと、2月には「見つけるゾウ (友達のいいところ)」を掲示する予定です。

そしてまとめの3月には「できるようになったゾウ」を掲示します。

ちょっとしたことかもしれませんが、子供たちの成長が実感できる場所として活用していきたいと思います。ご覧いただき、子供の成長を感じた際は直接お子さんに親としての喜びなどをお伝えください。

掲示の中をしてみると

- 「検定テストで100点がとれるようがんばる。」「習字でいい賞に入るようがんばる。」といった勉強に関すること
- 「スキー(バレー)をがんばる。」「交差跳びができるようにしたい。」といった運動に関すること。
- 中には「歌舞伎がんばって、先生にほめてもらう。」「鼓笛でオーディションにうかできるようにがんばる。」など、今一番がんばりたいことを具体的に書く子供もいました。